



R6 PTA総会開催～新体制よろしくお願いします。～

本年度も書面の配布を事前に行い、総会の時間短縮、会員の負担軽減を工夫。

4月27日（土）、令和6年度のPTA総会を開催しました。今年は土曜日開催としたので、授業参観・PTA総会ともに、多くの保護者の方々に来校して頂きました。例年の傾向通り1年生の保護者の方々はほとんどが出席して頂いたようで、授業参観も賑やかなものとなりました。

授業参観に続いてPTA総会が開催され、令和5年度の活動報告、会計報告と今年度の活動計画、予算案が承認されました。また、令和6年度の役員が承認されました。

- 会長** 岩館大輔さん（1-2・賢杜）【好地Ⅱ 大瀬川 八日市】
副会長 上山真実さん（2-1・心結）【好地Ⅰ】
副会長 藤根伸子さん（2-1・優勇）【八重畑】
副会長 佐々木玄德さん（3-3・來花）【新堀】
会計監査 杉山 潤さん（2-1・紗菜）【八幡】
会計監査 畠山牧子さん（3-1・港人）【好地Ⅱ 大瀬川 八日市】
会計監査 菊池香緒里さん（3-2・一芽果）【好地Ⅰ】
総務部長 継枝千秋さん（3-2・利優）【八重畑】
会員研修部長 近江佳奈子さん（3-2・梨花）【新堀】
生活指導部長 佐藤昭太さん（2-3・大和）【八幡】
1学年委員長 川村一真さん（1-1・茉幌）【八重畑】
2学年委員長 稲垣久美子さん（2-1・那望）【八幡】
3学年委員長 継枝千秋さん（3-2・利優）【八重畑】

【校長室より】修学旅行から帰校後、その週の土曜日まで授業日ということで、特に3年生の生徒と教員にとってはハードなスケジュールでしたが、生徒は元気に授業に取り組んでいて安心しました。PTAについては、生徒数の減少に対応して組織の改変、活動内容の削減等を新役員さん方と考えていきたいと思っています。役員の方々はもちろん、会員の皆さん方もご意見があれば参考にさせて頂きたいと思っています。

【5月8日全校朝会の表彰のご紹介】

花巻市民スポーツ大会

中学女子バドミントン 第1位 菊池未莉亜（1年）

中学女子バスケットボール 第2位 石鳥谷中

中学男子剣道 団体戦 第3位 石鳥谷中



【校長室より】石中生へ。体育祭の前に読んでほしいと思います。昔、フジテレビで放送されたお話。

その話は、小田原市の中学校の運動会のクラス対抗「大縄飛び」で、2年1組は**最下位だったにも関わらず**、みんなが飛び上がって大喜びしている映像から始まりました。1組には勉強も運動もちょっと苦手な、軽いハンディを持つ少年がいました。キャンプで目的地までの長い距離を歩いていて、少年は徐々に遅れてしまい、それでも必死にみんなの後を追っていると、一人の生徒がそれに気づいて、みんなで止まって待っていて、励ましながら一緒に歩き通したなどというように、いつも支え合ってきた仲のよいクラスだったそうです。ところが運動会で、6分間で何回跳べるかを競うクラス対抗大縄飛びをやることになって、仲のよいクラスに亀裂ができたというのです。何回も練習したけれど、少年安部ちゃんの足が縄に引っかかって、どうしても跳ぶことができるようにならなかったのです。クラスみんなの中には、優勝したいという気持ちと、一緒に跳びたいという気持ちが葛藤していました。一緒に跳ぶのが平等なのか、それとも外すのが思いやりなのか、クラス全員が悩みます。少年は「応援係」というのが、2年1組が少年の承諾も得た上で出した結論でした。それから1組の大縄跳びは練習を重ね、どんどん記録を伸ばすことになり、予行練習では一位になりました。**そして迎えた運動会の前日、一人の生徒が先生に気持ちを伝えます。「大縄跳びで安部ちゃんを外して跳ぶのは…、やっぱりイヤです」「勝ちたいという気持ちがあって練習してきたけど、やっぱり心のどこかで、一人外して跳んでいた自分に葛藤みたいなひっかりみたいなものがある…」**と。先生はクラスの雰囲気を感じていて、そういう発言を待っていた感じで、「それでは話し合いをやりよう」と、放課後にクラス全員での話し合いがもうけられました。一人一人が意見をぶつけ合い、「何でいまごろ言うんだよ！」と体育祭を明日に控えて怒りをあらわにする生徒もいました。一時間話し合っても、「勝ちたいから安部ちゃんは外してやりたい」「一人も外さないでみんなで跳びたい」との意見はまとまらず、先生が採決をとっても半々。そのとき一人の生徒が立ち上がり、「俺たちが決めることじゃなくて、安部ちゃんが決めることだよ」と言ったのです。いつも周りのみんなに気をつかい、自分の意見を言わない少年。応援係になることが決まるときにも、何も言わなかったのです。知らず知らずのうちに置き去りにしてしまった少年の気持ち。みんなが少年の言葉を待ちました。「…跳びたい」少年が心の底から絞り出した言葉。それは少年が初めて自分の気持ちを表現した瞬間でした。その言葉でみんなが気づかされました。勝ちたいという気持ちが先走り、忘れかけていた何か…。「安部ちゃんが跳びたいんだからみんなで跳びたい」「勝ち負けなんて関係ないから、一緒に跳べればいい」「予行練習で一位だったんだからもうそれでいい。本番は安部ちゃんと一緒に跳びたい」二つに別れていたみんなの思いは一つになっていました。「放課後、みんな残って、安部ちゃんのことを話しました。金子さん、鈴木さんの泣き顔、まだ頭の中から離れない。あっそうそう、先生の泣き顔おかしかったな。先生必死になって泣くのをやめようとして。ああいう時は泣いていいのに」「私、このことは忘れないと思うな。みんなの優しい気持ち、すっごくよくわかりました。2年1組はとってもすてきなクラスだと思う。」「一回も跳べなくていい。みんなで楽しみながら大縄しよう。」と生徒がノートに書き残していました。そして迎えた体育祭当日。午後にある大縄飛びの最後の練習を、昼休みにみんなでしました。みんなのかけ声でまわした縄は、やはり少年の足元で止まります。でもそのときには、「安部ちゃんを応援する気持ちしかなかったです。跳べないことで、やっぱりピリかとかではなくて、全然そんなのを意識しないで、安部ちゃん頑張れって…」と、**みんなで一緒に跳ぶことを選んだ2年1組の生徒たち**。そして一度も跳ぶことができないで迎えた大縄飛びの本番。クラスの親が偶然、撮影してあったビデオ映像に、「クラスみんなで見つけた勇気が映っていました」と、そのときのようなすが映像で流れました。その映像には、一人の生徒が安部ちゃんを抱きかかえるようにして、跳んでいるようすが映っていました。それでも一回目、二回目…と安部ちゃんの足元で縄が止まります。ところが何回目かに跳べたんです。少年と一人の生徒と一緒に跳べて、みんな一緒に跳べたんです。跳べたとき、競技中であることも忘れて、生徒全員が飛び上がって喜び合いました。1、2、3、4、5…連続して跳べていました。そして、その続きに映った映像には、誰の支えもなく、少年自らの力で跳び始めた姿が映し出されました。みんなで一緒に連続して跳べていました。みんな泣きながら跳んでいました。先生は後ろ姿しか映っていませんでしたが、きっと先生も泣いていたでしょう。「五位、2年1組、71回」とアナウンスが流れたら、みんな飛び上がって喜んでいました。安部ちゃんは、みんなと一緒に71回も跳べたんですね。みんな一緒に跳べたんですね。「最高のびりっけつ」!

☆体育祭や合唱コンクールの目的とは何なのでしょう。か。「何のためにやるのでしょうか」そして、組団は何を目標にして競技に臨むべきでしょうか。このお話からそんなことを考えて。練習・本番がんばってください。